



# 上和田有機米生産組合だより

4月号

私達はこれまで有機農業の地域的展開と「食」の本質を追求する中で、農家の自立と地域環境の保全を目指してきました。しかし、昨年発生した「東京電力福島第一原子力発電所」の爆発事故は、その試みと願いを、根底からくつがえす事態を招いてしまいました。日本全土を覆い尽くす放射能汚染の恐怖が、今なお続いています。



この地震大国日本に、原発が54基も存在すること自体がそもそも異常である事を、私達はあらためて認識する必要があります。

「いのち」の問題を次世代に伝える義務がある私達としては、この事を教訓に、経済や価値観そのものなど、この国のあらゆるあり方について、もう一度問い直す時期に来ているものと実感します。

まさに、私達「生産組合」のスローガンとして掲げてきた「いのち・環境・未来」が、あらためてその輝きを増していると考えます。

取り巻く情勢は、放射能の問題のみならず、「TPP」や異常気象、エネルギー問題など、決して平坦なものではない訳ですが、目指す運動の方向性に確信を持ち、消費者の方々や取引先の方々をつながりを含め、組合員相互の信頼と親睦を深めつつ、一方で被災された方々の復興にかける願いと行動に思いをはせ、組合活動に全力で取り組んでいきたいと思えます。

今年も関係各位のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

上和田有機米生産組合 組合長 二宮隆一



参加者のみなさんはとても熱心に聞いていました

3月11日総会后上山温泉日本の宿古窯さんで懇談会・懇親会を行いました。また西日本新聞社編集委員の佐藤弘氏を講師に招き「食卓の向こう側」に見えるものと題し講演会を行いました。子供の体温が低下し、野菜の質（ビタミンなど）の低下、免疫力の低下など現代の食生活が影響しているのがわかりました。炭酸飲料やスポーツドリンク含まれている砂糖の量にも驚きました。医は食に・食は農に・農は自然に学べ

4月に入りましたが雪が降ったり寒い日が続いています。田んぼにも雪が残っています。桜はまだ咲きませんがいよいよ農作業が始まりました。種子の温湯消毒です。60℃のお湯に10分ほど浸漬させ種子が病気にならないようにします。その後水で冷やし発芽を待ちます。農薬に頼らず全組合員がこの作業を行います。

